

エアコンを除湿に活用する

古来より日本の家屋の在り様は「家の作りやうは、夏をむねとすべし」（徒然草 第 55 段）ということで、屋内外の空気を貫流させて蒸し暑さを凌ごうとする考え方でした。京都の町屋にはそうした事例が沢山あります。京都の場合、紀伊山地によって太平洋からの高温多湿の空気団の直撃を免れていますので、それはそれでよかったです。

しかし、今年の当地（さいたま市）は、例年よりはるか北東に陣取る太平洋高気圧の縁に沿って北上する極めて湿度の高い空気（←無尽蔵）の直撃を受けていまして、もはやそんな対策では間に合わない状況となっています。湿度が異常に高いと全くロクな事はありません。

注）もし太平洋高気圧が日本の上空にあれば、高気圧の中心付近では風が上空から地上に吹き降りてくるのでカラッとした夏空になり、こんな厄介な問題は起きません。

効果的でコストパフォーマンスの高い除湿方法を考え出さなければならなくなりました。除湿というと、①専用の除湿機を使う、②エアコンの「除湿モード」を使うことが考えられますが、前者は騒音がウルサイし、後者は間欠的に強い冷房運転をする仕組みなので室温の変動が大きくてイマイチです。

いろいろ試してみたところ、一番妥当かもしれないと思われたやり方が「25 度設定での冷房自動運転」でした。

これだと室温は 25 度±1.5 度、湿度は 75%±5%という範囲に収まっています。運転音も静かですし、電気代にしてもまずまずといったところです。

室内の相対湿度が 75%ではあまり意味が無いと思われるかもしれませんが、屋外で汗をかいて部屋に入ってみると確実に汗が引いていきます。

エアコンのリモコンに「(設定) 湿度 50%」と表示されている場合もありますが、それはまず実現不可能ですし、必要もないし、省エネ上も好ましくありません。

（何事も程々がよいのではないのでしょうか）

エアコンの冷房運転というと、つつい室温の方ばかりに注意がいきますが、実はリーズナブルな除湿方法としても有益なのです。

なお、エアコンのメーカーにより、同じメーカーでも機種により運転プログラム上の特徴

(=クセ) がありますので、これを理解することは自分により適した使い方をするために有益です。

また、猛暑日で外気温が 35 度を超えるような場合、25 度という室温設定では（低過ぎて）ヒートショックを受ける心配があります。

このような時は室温設定を少し上げた方がいいと思います。省エネにもなります。

今年の夏、7月上旬は暑い日が多くて長期予報の通りだったのですが、中旬から下旬にかけてはオホーツク海高気圧から東風が流れ込み、雨の日が多くて梅雨明けが遅れました。この頃はまだ「天候不順？」と思っていましたが、8月中旬過ぎにはこれはもう異常気象だと思いました。異常な天気図は「お役立ち情報」の目次からご覧になれます。

この先、天気は一体どうなるのか見当もつきません。しかしどうなろうと出来る範囲で何とか工夫して乗り切るしかありませんね。

以上